

令和3年度第3回秩父市総合教育会議議事録

期 日	令和4年3月22日（火曜日）
時間・場所	15時～16時15分・歴史文化伝承館5階第1会議室
出席者	<p>北堀市長、前野教育長、高野教育委員、松本教育委員、山中教育委員、大島教育委員</p> <p>市長室長、市長室専門員兼地域政策課長、市長室参与、地域政策課主査、教育委員会事務局長、教育委員会事務局次長2人、教育委員会専門員兼教育総務課長、学校教育課長、保健給食課長、教育研究所長</p> <p>傍聴者なし</p>
会議内容	<p>○市長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先日、まん延防止等重点措置は解除されたが、新型コロナウイルスの感染は、まだ油断できない状況である。現在3回目のワクチン接種が進んでいるが、委員の皆様にも、引き続き、基本的な感染防止対策を徹底していただきたい。 ・私は、先月末に3回目の武田/モデルナ製のワクチンを接種した。武田/モデルナ製のワクチンへの副反応の不安の声があるが、幸い接種後の副反応はなかった。 ・3月15日から5歳～11歳の小児の方々へのワクチン接種も開始となったが、接種については努力義務とはなっていないため、各ご家庭で判断いただき、学校生活において、接種を受ける又は受けないことによつて、差別やいじめが起きないように十分な配慮をお願いしたい。 ・今日は今年度最後となる総合教育会議となるが、本日も皆様の積極的なご発言をいただければ幸いである。 <p>○教育長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度同様、令和3年度も新型コロナ対応としてスタートして、間もなく年度末を迎えるが、ゆっくりと教育活動が出来る状況にはなっていない。 ・現在は小学生を中心に感染が増えている傾向がある。本日時点で、市内13校のうち、3校、7学級が学級閉鎖している。今週末まで学校が終業となるが、残念ながら登校できない状況がある。 ・3月15日には、感染対策をしっかりとしながら、保護者の参加のもと、中学校の卒業式が終わり、24日は小学校の卒業式が行われる予定である。501名の卒業生が無事に卒業してほしい。 ・議事については2点あるが、皆様には忌憚のないご意見をよろしくお願ひしたい。

○議事

(1) 令和4年度 教育関係の主要事業について

資料1について中野事務局長より説明

(高野委員)

「情報通信技術支援事業」の具体的な中身はどのようなことか。

(事務局)

- ・令和4年度に11,221千円計上しており、委託した業者から小中学校に対して、各1名ずつ派遣してもらい、授業で使える効果的な方法や手段を指導してもらう予定である。

(高野委員)

- ・市報の9月号でICT教育について掲載していただいております。子どもは秩父の宝という言葉に非常に感銘を受けている。これからの時代を生きていく教育には、ICT教育は大切だと感じている。
- ・GIGAスクール構想により、一人1台端末が揃い、ハードが整った。今後は、学校の格差があってはいけないと思っていたが、来年度は専門業者が来て指導してくれるとのことなので、少し安心した。

(大島委員)

「秩父第一中学校共同調理場改修設計業務委託」について、実感として、一小的共同調理場の方が古く感じているが、一中の方を先に改修する理由はどのようなものなのか。また、「セーフスクール推進事業」の中で、修繕費があるが、危険箇所を直すために既存の予算に補填した費用なのか。

(事務局)

- ・一中学共同調理場は、一日あたりの食数を作る量が最も多く、一小は古いが修繕が必要な箇所が少ない。
- ・セーフスクールは、令和4年度に関して、9年間進めてきた「インターナショナルセーフスクール」の3校の取り組みを全ての市内の小中学校へ広げていく。各学校の軽微な修繕に充てるため、安全教育推進のために消耗品を充てるための予算である。

(松本委員)

- ・「セーフスクール推進事業」の予算は各学校に均等に配分するのか。

(事務局)

- ・均等に配分する予定である。

(松本委員)

- ・1校あたりの金額は大した金額にはならないのではないかと。市内全域に広げるための金額として適切なのか。

(事務局)

- ・来年度については、二中でのみ取り組んできた安全教育の申請書冊子を印刷して校長会議等で周知する予定である。安全教育の取組で直しておいた方が良いところを直してもらふ予算となる。

(松本委員)

- ・すでに各学校でそれぞれが安全対策していると思うが、10万円程度では、セーフスクールを市内全域に広げるためには、額があまりも少ないのではないか。
- ・今年度は3校に対して、消耗品や修繕費はかかっているのか。

(事務局)

- ・修繕費については、今年度はかかっていない。認証のための委託費用等がかかっており、消耗品では3校で20万円程度である。

(松本委員)

- ・認証のためにはいくらかかっているのか。

(事務局)

- ・認証のためには3年間で約1,000万円程度かかっている。認証については、来年度から認証は目指さない。それに関する予算はかからないため、その分を消耗品や修繕費にあてる予定である。

(松本委員)

- ・理解した。

(教育長)

- ・今年度は安全教育の授業を影森の小中学校と久那小学校で行ったが、その内容を踏まえて他校にもより安全な教育環境づくりを広めていく。セーフスクールの観点から、階段にカーブミラーを付けてもらった例もあり、他の学校にもそのように必要な物を付けるといったことにも予算を使えるのではないか。また、表示なども手作りをやってもらっている学校もあるが、一律に予算だけを配分するのではなく、教育委員会からも投げかけていきたい。

(松本委員)

- ・具体的に教育委員委員会から提案や投げかけをしてみても良いのでは。各学校の安全対策の一つの手段となる。それらの情報を各学校へ広めることは良いのではないか。

(高野委員)

- ・今まで9年間セーフスクールに取り組んだ成果をこれから、秩父市全体へ広めていく非常に素晴らしい取組だと思う。

(山中委員)

- ・「情報通信技術支援事業」について、昨年度から一人1台パソコンが配布されたが、技術的なサポートが必要だと感じていた。来年度そのよ

うな支援が行われるということで、先生達の負担も軽減されるのではないかと思う。

- ・セーフスクールで取り組んできた結果を秩父市内へこれから広げていくのは非常に有意義な取組になると思う。今後は地域、保護者、学校で共同して取り組んでいけたら良い。

(高野委員)

- ・パソコンが全員に整備されたということで、健康観察等の面で非常に有効に使えていると聞いている。しかし、保護者側から学校へというような双方向性のメールが上手くできていないという現状があるとも聞いている。

(事務局)

- ・3月議会でも一般質問があったが、双方向性のアプリについては検討していきたい。現在はすぐメールということで学校側から一方的なメールのみであるため、双方向のツールについては、今後検討していく。

(松本委員)

- ・子ども達のためにどうするかということを最優先に考えていった方が良いと思う。

(市長)

- ・セーフスクールが3校だけ取り組んでいることに違和感を感じていた。他校にも今までの経験を活かして、セーフスクールの安全対策を講じていく必要がある。そうではないともったいないという意見もある。
- ・また、校内だけではなく通学の問題もある。学校に行くまでの間の安全、総合的なセーフスクールを確保していくという方向性が必要だと思う。安全が確保されないことが異常な状態。子ども達の身の安全、スクールガードにも見守っていただきながら、子ども達の安全を秩父市民が全体で見守っていく必要がある。
- ・GIGAスクールについては、ICTだけに頼らないでほしい。電源が途絶した時に何もできない子どもにはなってほしくない。デジタルとアナログが共存できる子ども達になってほしい。

(2) 給食全般について

資料2 について保健給食課長より説明

(高野委員)

- ・現状では教員方への負担が大きいため、給食費の公会計化については負担軽減の一助になる、実現は来年か。

(事務局)

・令和4年度は準備期間で実施は令和5年度からになる。

(高野委員)

・教員は、給食費の徴収のために夜間に家庭訪問したり、本来の仕事ではない分野へ力を注がなくてははいけなかったが、これが実現されれば非常に良いことだと思う。

(大島委員)

・学校給食における有機農産物の推進とSDGsの関係性についてはどのような関係があるのか。

(事務局)

・SDGsは持続可能な開発目標であり、持続可能に生産者が有機農産物を提供できるよう有機農業の推進に、農林水産省では力を入れている。

(大島委員)

・SDGsといえばフードロスの問題がある。B級品や賞味期限が短くなったものを使うことがSDGsの目標達成に近いのではないのか。

・有機農産物となるとコストや数量の問題がある。ここにこだわる理由は何があるのか。

(市長)

・私はマニフェストで有機農産物の使用を掲げている。現状で農薬による子ども達への健康被害がある。商品として提供する物については、きれいなA級品が良いと思う。オーガニックは、農薬を出来るだけ使用しない、B級品であっても賞味期限が短ければ短いほど農薬があまり入っていないため、それらを食材として提供してもらいたい。B級品をきちんと購入して、子ども達へ提供していく。輸入野菜は非常に持ちが良いが、それを食べて本当に健康になるのか。

・子ども達には、小さい頃から低農薬や有機栽培で生産した食材を取り入れてほしい。多少手間がかかっても、そのような食材を提供していきたい。秩父市内でもオーガニック農業をやっている方が少しずつ増えている。

・また、市民の方々にも食に関する意識改革をしてもらいたいと考えている。

(高野委員)

・実際問題、それを給食に取り入れるとなると、コストや生産の面では大変になると思うが、少しでも意識を変えていくという考えは良い。

・子ども達は、給食月間や給食週間の際に、様々なことを学んでいる。その際にオーガニックのことを知識として知っていく。また、小さい子ども達が、米作り等の体験を通じて、地産地消を進めて子ども達の意識を変えていくことが大事だと思う。

(松本委員)

- ・沿革詩によると、秩父で給食が始まったのは、秩父第一小学校。昭和23年にミルク給食が開始され、昭和26年に調理場ができ、給食が開始となった。私が子どもの頃には、化学薬品が開発され、そのような物を入れて、農業生産性を上げてきた。
- ・オーガニックとして、なるべく化学薬品を使わないで生産することは非常に大変であるが、最近ではなるべく化学薬品を使わないような流れになっている。
- ・私は、家庭菜園をやっているが虫がつく。しかし、そのような物が安全であり、安全な物を作ってくれる方々に食材提供してほしい。最近アレルギーが増えているため、ぜひ出来る方向で考えていただきたい。ただし、コストがかかる可能性がある。食材を納める方々に努力していただかなくてはいけないが、ぜひ進めてもらいたい。

(山中委員)

- ・オーガニックの提供については、理想的で非常に素晴らしいことであるが、どれくらい毎日子ども達が食べるのか、現実の給食を考えると実感が沸かない。少しずつ、学校の中で取り入れていくことが必要と感じる。
- ・学校教育の中で、子ども達が畑を耕して肥料をやってという教育が必要ではないか。与えられた野菜が、ただオーガニックというようにならないことが大事ではないか。

(市長)

- ・一度に進めることが出来るとは思っていない。
- ・消費者からのニーズがミスマッチしている。農家さんによっては、農薬の使い分けをしている。農家さん自身が食べているようなオーガニックを提供してほしい。
- ・最近では、若い方々がオーガニックに興味を持って農業をやっている。それで生計を立てられていければ一番良い。東京の富裕層には、オーガニックが非常に売れるため、販路を拡大してもらい、秩父市内では地産地消を進めてもらう。
- ・農業政策は県事業となっており、相談もしている最中。最初は上手くいかないかもしれないが、子ども達の健康被害で出ないこと、市民の方の健康長寿が保てる街にしていきたい。そのためには消費者の方々の意識改革が必要である。

(山中委員)

- ・オーガニックとは無農薬というわけではないのか。

(松本委員)

・減農。有機農法であり、全く肥料を使わないわけではない。

(松本委員)

・長いスパンで考えて行った方が良い。小さい子ども達が、そのような野菜を食べていけば健康に良いんだという意識が育ち、大人になってそのような物を食べようという判断になってほしい。

・給食はただ食べるだけではなく、協力して配膳したり、会話したり、後片付けしたりと、人が育つための様々な経験ができる。子どもは、成長していく中でオーガニックという意識を考えていければ良いのではないか。身体に良いものを自ら取り入れていこうという意識改革が必要。

(大島委員)

・給食週間でオーガニックを食べて、プラスアルファで座学も取り入れる形が良い。

(山中委員)

・子ども達が有機野菜に関心を持っていけば将来に繋がっていく。我が家でも畑をやっているが、孫たちに食べさせる物は減農で作った物を食べさせていきたい。

・荒川地区では畑が草になっていく場所があるが、そのような場所を活用していけば、地域活性化にもつながるのではないか。

(高野委員)

・私達も今回のテーマで考える良いきっかけとなった。子ども達もこのコロナ禍で食についての学びが出来ると良いと思う。

○閉会

以上